

第2号刊行に寄せて

会長 津曲敏郎

2005年度の総会で新執行部の発足をお認めいただき、運営委員ともども新たな気持ちで会の運営に取り組んでまいりましたが、本誌の刊行をもってひとまず今年度の活動の締めくくりとなります。昨年度『北海道民族学会会報』として創刊されたばかりではありますが、第2号からは判型の変更のみならず、査読制の導入など、新しい試みを盛り込みました。さらにこれを機に誌名の変更とISSN（国際標準逐次刊行物番号）の登録を行いました。会の「顔」とも言うべき会誌が年ごとに大きく変わるの、もちろん好ましいことではありませんが、会員の皆様のご意見や運営委員会での検討を経て、より魅力あるかたちをめざしたものと、ご理解ください。今後はこのスタイルでの定着をはかり、ここに盛られる論考がますます充実し、定評ある、また特色ある学会誌として継続できるよう、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

特に誌名の変更については、運営委員のあいだで議論を重ねた結果、体裁が大きく変わるこの機会に合わせて、学会誌にふさわしい名称に変更すべきだと考え、踏み切ったものです。新誌名『北海道民族学』はもちろん、地域や対象を「北海道」に限定するものではありません。今号の目次をご覧いただければ一目瞭然ですが、およそ民族学にかかわるあらゆる問題について、世界を視野に北海道から発信していこうとするものです。

北海道民族学会が設立されたのは1981年ですから、2006年は創立25年にあたります。四半世紀前にはおそらく予想もつかなかったような、メディアやITの発達で、学会や会誌のあり方もずいぶん変わってきています。本会でも昨年8月からホームページを立ち上げ、会員のみならず、広く一般の方に向けて情報の提供を行っています。しかしながら、研究会でじかに顔を合わせて議論を交わし、親睦を深めたり、会誌の行間からさまざまな研究分野や考え方を読み取ったりする楽しみは、おそらく変わっていないように思います。それこそ、先輩諸氏がこの会を立ち上げ、25年続けてきた原動力なのでしょう。

本誌が会員相互の研鑽と交流の場となるとともに、「北海道民族学」の活力を広くアピールする発信源となることを願ってやみません。

(つ magari・としろう／北海道大学)